

平成27年度 公共事業再評価調査

(区分) 国補・県単

1. 再評価調査

事業名	治水事業 [統合一級河川整備事業 (国補)]		事業箇所	韮崎市龍岡町下條東割～大草町若尾	地区名	古川	事業主体	山梨県												
	当初計画	現計画	今回見直し予定		再評価時の評価状況 (平成22年度再評価) この事業は、韮崎市龍岡町下條東割から大草町若尾地内における一級河川古川の河川改修事業である。本事業地域は国道52号と隣接している区間があることにより交通利便性が高く宅地等の開発が進んでいるが、計画流量が30m ³ /secに対し現況流下能力が4m ³ /secの流下断面しか有していない。そのため、本事業では河道拡幅による治水安全度の向上を図り氾濫防止を目的としている。 当初計画では、この目的の達成のために平成25年度を完成年度として事業を進めていた。しかし、地元利水関係者との調整に時間を要し、また、国道橋架け替えに伴う迂回路等の仮設工事、さらには、取水施設整備等にも事業費の増額を要することから、計画の見直しでは、計画期間を4年間延長、総事業費を420百万円増加する案となっている。 この計画は、宅地開発等が進展する周辺地域の治水安全度の向上を図る上で有効な事業であることから、今後は、用地の取得及び橋梁や農業用水路等附帯施設の統廃合などの整備問題の解決に努めるとともに、事業費予算確保を含めて事業の時間管理を徹底し、平成29年度の完成に努められたい。															
計画期間	H3年度～H18年度	H3年度～H29年度	H3年度～H34年度																	
総事業費	1,870百万円	2,900百万円	-																	
(1) 事業の概要																				
事業目的及び効果 古川は国道52号が隣接している区間があることから、交通の便が良いため、その沿川は宅地等の開発が進んできている。 その一方、計画流量30m ³ /sに対し、現況の流下能力は約4.0m ³ /sと、15%程度の流下断面しか有していないため、近年では平成23年の台風15号による降雨では河道がほぼ満水状態となり、特に断面が狭小な区間では溢水被害が生じた。 このため、河道拡幅による治水安全度の向上を図り、氾濫を防止する事を目的とする。																				
事業概要 50年に1度の割合で発生する洪水を河道で安全に流下するための改修を進める。 全体改修延長 L=2,680m 計画流量 30m ³ /s～10m ³ /s 治水安全度 1/50																				
現計画の全体計画 (今回の再評価で変更する前の内容) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成26年度まで</th> <th>平成27年度 (評価実施年度)</th> <th>平成28年度以降</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事内容</td> <td>改修延長 : 2,250m 護岸工 : 4,340m 道路橋 : 17橋 取水堰 : 1基 用地補償 : 1式 測量設計 : 1式</td> <td>改修延長 : 330m 護岸工 : 660m</td> <td>改修延長 : 100m 護岸工 : 200m 道路橋 : 1橋 分水工 : 1基</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>2,650百万円</td> <td>100百万円</td> <td>150百万円</td> </tr> </tbody> </table>										平成26年度まで	平成27年度 (評価実施年度)	平成28年度以降	工事内容	改修延長 : 2,250m 護岸工 : 4,340m 道路橋 : 17橋 取水堰 : 1基 用地補償 : 1式 測量設計 : 1式	改修延長 : 330m 護岸工 : 660m	改修延長 : 100m 護岸工 : 200m 道路橋 : 1橋 分水工 : 1基	事業費	2,650百万円	100百万円	150百万円
	平成26年度まで	平成27年度 (評価実施年度)	平成28年度以降																	
工事内容	改修延長 : 2,250m 護岸工 : 4,340m 道路橋 : 17橋 取水堰 : 1基 用地補償 : 1式 測量設計 : 1式	改修延長 : 330m 護岸工 : 660m	改修延長 : 100m 護岸工 : 200m 道路橋 : 1橋 分水工 : 1基																	
事業費	2,650百万円	100百万円	150百万円																	
特記事項 <ul style="list-style-type: none"> 平成3年8月20～21日：(台風10号)の影響により浸水家屋6戸、浸水面積10ha [時間最大雨量：12.0mm 最大24時間雨量：87.0mm] 平成6年9月29～30日：(台風26号)の影響により浸水家屋1戸、浸水面積10ha [時間最大雨量：28.0mm 最大24時間雨量：89.0mm] 平成18年7月18～19日：(台風3号)の影響により浸水家屋1戸、浸水面積10ha [時間最大雨量：10.0mm 最大24時間雨量：97.0mm] 平成23年9月20～21日：(台風15号)の影響により浸水家屋なし、浸水面積10ha [時間最大雨量：30.0mm 最大24時間雨量：186.5mm] 雨量：気象庁韮崎観測所 今後整備する区間の流下能力1.0m³/s(計画流量10m³/s) 																				
(2) 評価項目 [事業を巡る社会経済情勢等の変化] (今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容) 地域・住民の意向状況 なし 産業・社会経済情勢 県全体の河川事業費減少の影響により、予算確保が困難となった。 国等の方針変更 なし 上位計画・関連事業計画等の変更 なし 自然環境条件等の変化 なし その他 バイパス計画区間において、地図訂正を行う必要が生じ公図の修正を行った。																				
(3) 評価項目 [再評価時点の費用対効果分析] <ul style="list-style-type: none"> 平成3年度事業採択時計画における事業全体B/C 未算出 平成12年度再評価時計画における事業全体B/C 16,632百万円 / 4,304百万円 = 3.9 平成17年度再評価時計画における事業全体B/C 15,300百万円 / 2,860百万円 = 5.3 平成22年度再評価時計画における事業全体B/C 20,178百万円 / 3,265百万円 = 6.2 平成27年度再評価時計画における事業全体B/C 23,328百万円 / 3,431百万円 = 6.8 > 1.00 (国土交通省治水経済調査マニュアル(案)により算出 採択基準1.00以上) B：便益 C：費用																				

2. 再評価調書

(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]

これまでの計画変更等の概要

県全体の河川事業費減少の影響により、予算確保が困難なため、計画期間を平成29年度まで延期した。

国道橋架け替えに伴う仮設工事及び取水施設整備等により、工事期間の延長及び総事業費を増額した。(平成22年度再評価)

(計画期間) 4年延長

(事業費) 420百万円の増

施工済みの事業内容((1) 「全体計画」に記載した内容と比較)

	現 計 画 平成26年度迄	実 施 平成26年度迄
工事内容	改修延長 : 2,250m 護岸工 : 4,340m 道路橋 : 17橋 取水堰 : 1基 用地補償 : 1式 測量設計 : 1式	改修延長 : 1,760m 護岸工 : 3,400m 道路橋 : 12橋 取水堰 : 1基 用地補償 : 1式 測量設計 : 1式

進捗率(現計画に対する実績)

	*H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
計 画	61%	66%	74%	79%	84%	96%
実 績	59%	63%	66%	66%	66%	66%

	H28年度	H29年度	算出方法
計 画	98%	100%	計画整備延長/総整備延長×100
実 績			実施整備延長/総整備延長×100

*再評価実施年度

平成27年度の実績は見込み

事業の進捗が順調でない理由

バイパス計画区間において、地図訂正を行う必要が生じ、公図の修正に時間を費やしたこと、さらに河川事業費の減少により、予算確保が困難なことから、予定どおり事業が進捗していない状況である。

今後の事業執行上の問題点

なし

今後の事業の進捗の見込み(計画期間について記載)

平成27年度に入り、用地取得に関して、地権者(37名)から同意書が得られたことから、時間及び工程管理を徹底し平成34年度の完成を目指す。

事業計画の変更の見込み・可能性(総事業費について記載)

なし

(5) 評価項目 [環境への配慮]

生物の生育環境を確保し、良好な河川環境と水辺空間の形成に配慮している。

(6) 評価項目 [コスト縮減の可能性]

なし

(7) 評価項目 [代替案立案の可能性]

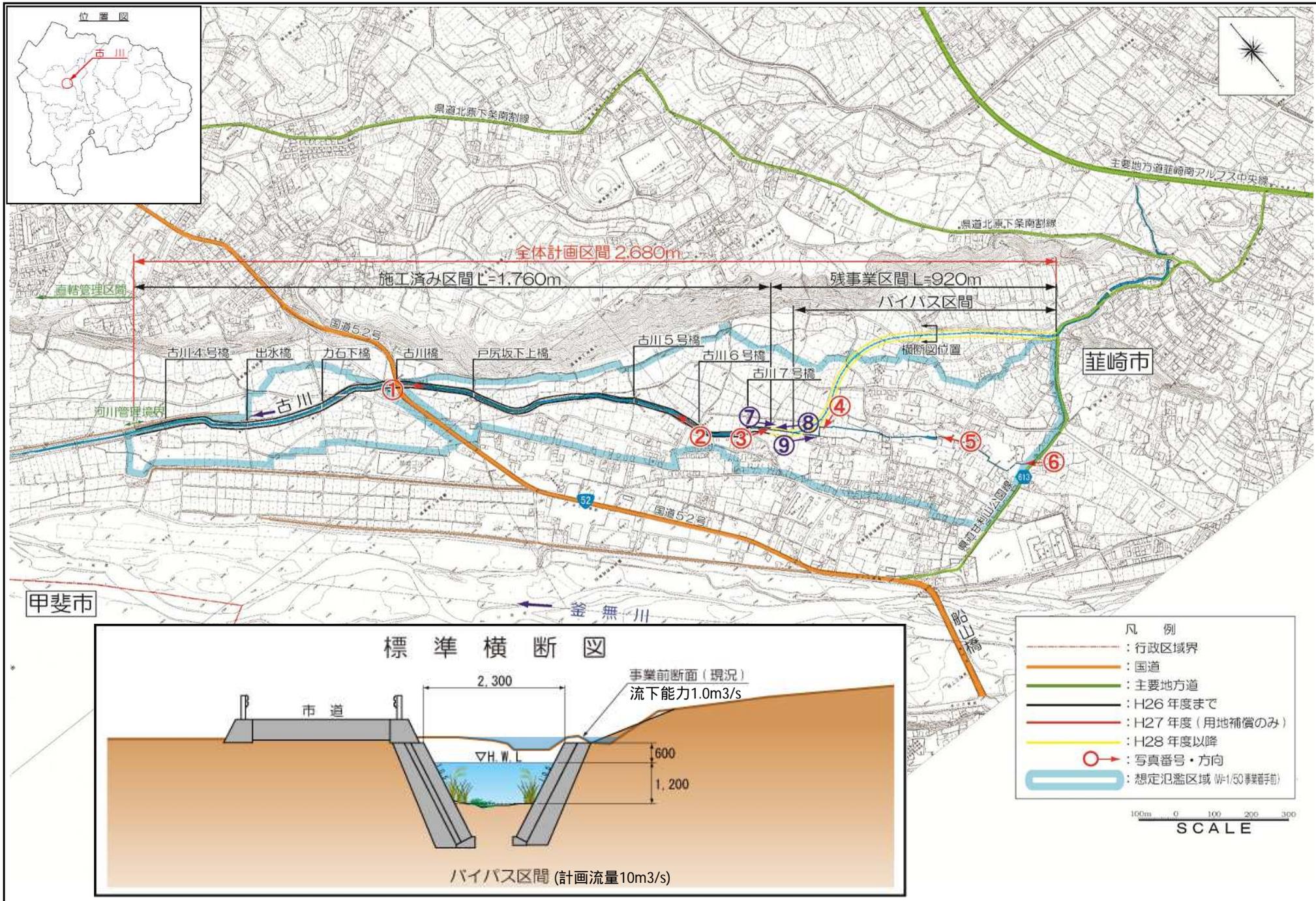
なし

(8) 所管部の今後の方針 継続・**見直し継続** その他()

(理由)

浸水被害の解消を図るため、計画期間を5年延長し、平成34年度の完成を目指す。

3. 添付資料シート(1)



添付資料シート(2)

現況等写真

写真 国道52号「古川橋」より上流の状況(改修後)



写真 古川6号橋より下流の状況(改修後)



写真 古川7号橋より上流改修済み区間上流端の状況(改修後)



写真 残事業区間下流端付近の状況(現況河道)



添付資料シート(3)

現況等写真

写真 上流部の工場間を流れる古川の状況(現況河道)



写真 県道甘利山公園線から下流の状況(現況河道)



現況等写真および平成23年9月台風15号出水状況

写真 バイパス起点付近 左:出水状況(改修前)

右:現況河道(改修後)



添付資料シート(4)

現況等写真および平成23年9月台風15号出水状況

写真 バイパス起点上流付近 左：現古川 右：出水状況



写真 バイパス起点上流付近 左：現古川(屈曲部) 右：出水状況



年度別事業費内訳表（今回変更後の内容）

年度	見直し後事業費（千円）	事業概要	進捗率
H3	6,000	測試 1式	0%
H4	9,000	測試 1式	0%
H5	40,000	用地補償 1式	0%
H6	60,000	用地補償 1式	0%
H7	350,000	護岸工 L=250m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	7%
H8	70,000	護岸工 L=60m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	8%
H9	80,000	護岸工 L=80m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	9%
H10	60,000	護岸工 L=90m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	11%
H11	110,000	護岸工 L=480m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	20%
H12	110,000	護岸工 L=140m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	23%
H13	70,000	護岸工 L=120m	25%
H14	80,000	護岸工 L=40m、橋梁工 1橋	26%
H15	50,000	護岸工 L=50m	27%
H16	90,000	護岸工 L=150m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	30%
H17	182,000	護岸工 L=150m、橋梁下部工 1橋	33%
H18	235,000	護岸工 L=270m、橋梁上部工 1橋、用地補償 1式	38%
H19	168,000	護岸工 L=200m、橋梁工 1橋、取水堰 1基、用地補償 1式	42%
H20	220,000	護岸工 L=600m、用地補償 1式	53%
H21	150,000	護岸工 L=120m、用地補償 1式	55%
H22	40,000	護岸工 L=200m、用地補償 1式	59%
H23	90,000	護岸工 L=220m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	63%
H24	20,000	護岸工 L=140m、橋梁工 1橋、地図訂正	66%
H25	10,000	地図訂正	66%
H26	5,000	地図訂正	66%
H27	47,000	用地補償 1式	66%
H28	138,000	護岸工 L=300m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	71%
H29	85,000	護岸工 L=300m、橋梁工 1橋	77%
H30	85,000	護岸工 L=300m、橋梁工 1橋	82%
H31	85,000	護岸工 L=300m、橋梁工 1橋	88%
H32	85,000	護岸工 L=300m、橋梁工 1橋	94%
H33	40,000	護岸工 L=220m、橋梁工 1橋、分水工 1基	98%
H34	30,000	護岸工 L=120m（減勢工含む）	100%
合計	2,900,000		

進捗率(%)=実施整備延長÷総整備延長×100